

「あなたは本来
もう死んでいる予定だったのですが、
私たちの手違いでうっかり
死なせそびれてしまいました。
なので死神である私が
改めて殺しなおしに来ました。」

死神と名乗る
少女は言った。

「人は等しく死に、
その運命は初めから決まっているのですよ。
心配せずとも、
あなたは心臓発作などの
自然な形で死ぬことになります。」

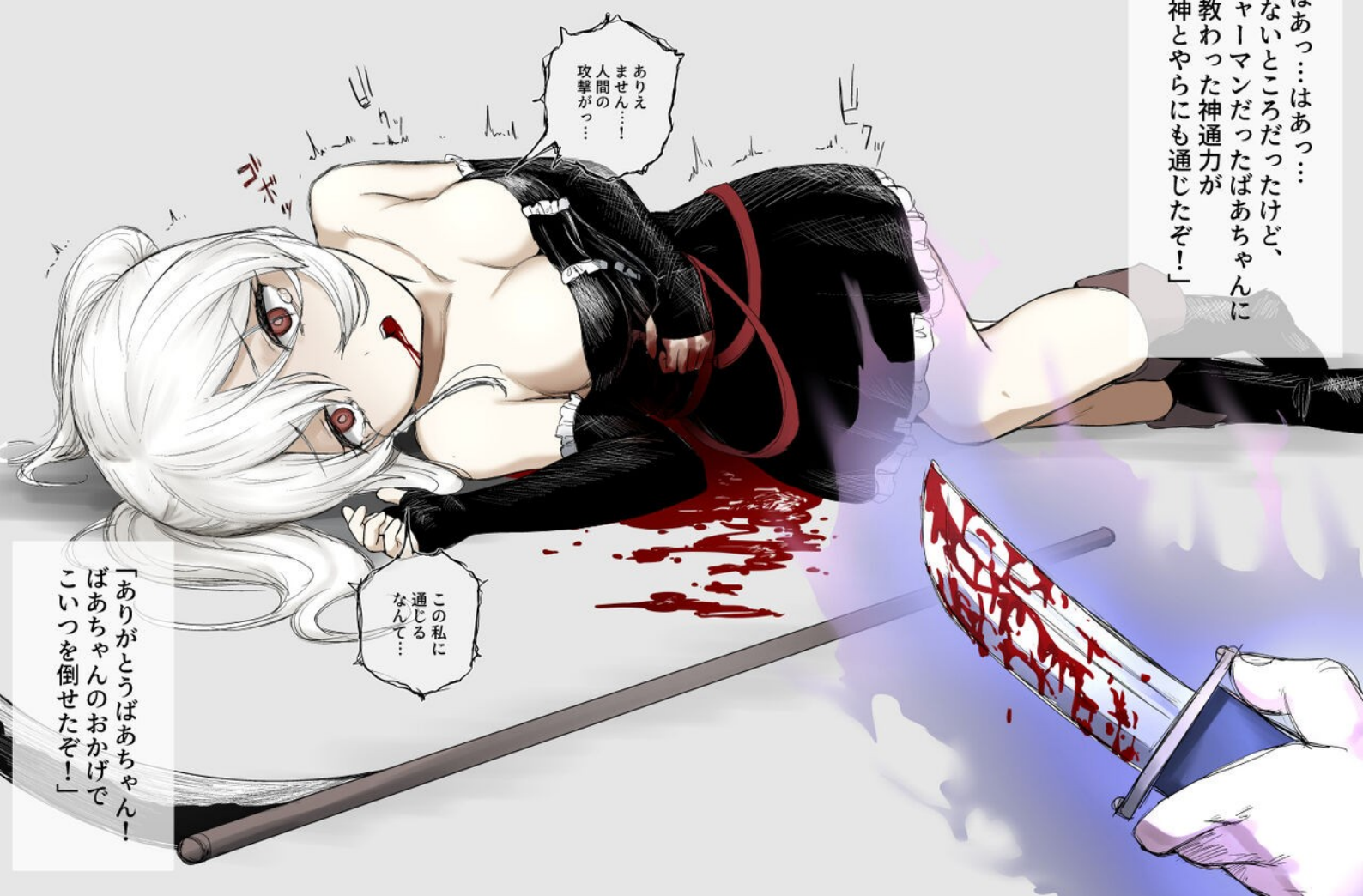


「はあっ…はあっ…
危ないところだったけど、
シャーマンだったばあちゃんに
昔教わった神通力が
死神とやらにも通じたぞ！」

ありえ
ません…！
人間の
攻撃がっ…

この私に
通じる
なんて…

「ありがとうばあちゃん！
ばあちゃんのおかげで
こいつを倒せたぞ！」



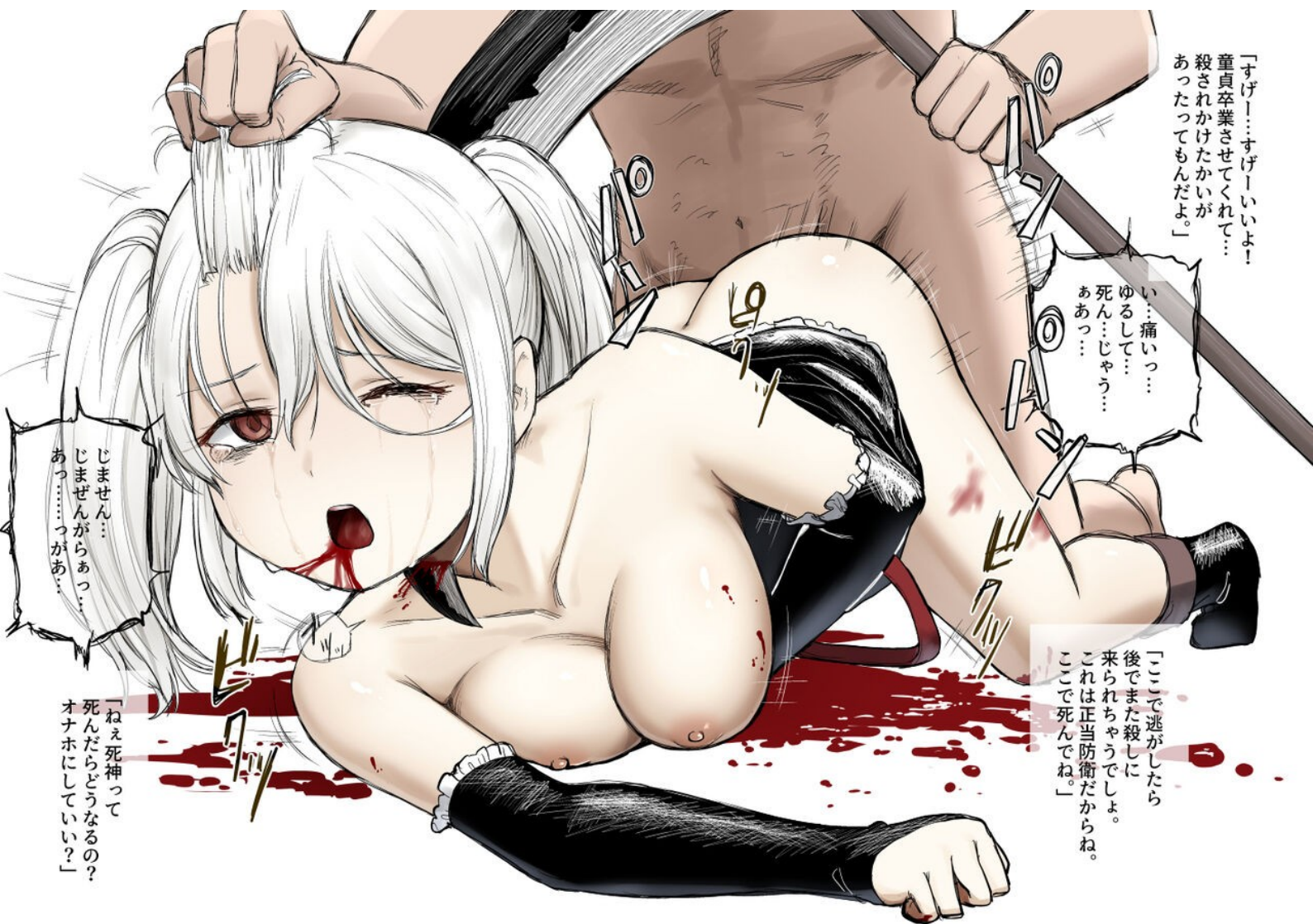
「すげーすげーいいよ！
童貞卒業させてくれて…
殺されかけたかいが
あったもんだよ。」

い…痛いっ…
ゆるして…
死ん…じやう…
あつ…

「ここで逃がしたら
後でまた殺しに
来られちゃうでしょ。
これは正当防衛だからね。
ここで死んでね。」

じません…
じませんがらあつ…
あつ…つがあ…

「ねえ死神って
死んだらどうなるの？
オナホにしている？」



「これ使い始めて数か月…
何百回か使ったけど全然使えるな。」

「それにしても
本当にカワイーよなあ…。
こんなかわいい娘がきてくれて
ラッキーだったなあ。」

「一生大切に
してあげるからね。」



「5カ月前に消息を絶った
お姉ちゃんが
最後に向かったのは
あなたのところだそうですね……。
お姉ちゃんをどこへやったの!?
何か知っているんでしょう!？」

死神を名乗る少女が現れたのは
これで二度目だった。

前に来た子の
ことなら……
今朝使ったまま
ベッドの上に……



「嘘……
なんでッ……
お姉ちゃ……」

オナh——姉の遺体を
抱えながら
彼女はひどく
取り乱した様子だった。

隙だらけだ。



「神縛紐（かみしばりのひも）」

神通力を繊維に練り込ませた綱を編み込むことで作られる。超常的な力を封じることができる。人外のものの力に対抗するべく生み出された技術である。



かつて安倍晴明が陰陽道の研究の末編み出したとも言われている。沖縄の霊媒師ユタの間でも同様のものが使用されていた記録が残っている。

限られた才能を持つ人間にしか作ることができず、作成法の記された書物も戦火に焼き消え、現代ではすでに失われた技術であると考えられている。

「何この紐……
力が……!？」

ふう……。いつだったか
ばあちゃんと一緒に作った
魔除け? の紐が役に立った。
どれ……。パンツは……。

ペレ

「なっ……
何してるの!？」



「きみのおマンコ、綺麗だね。
お姉ちゃんにそっくりだよ。
きっとお姉ちゃんと同じくらい
気持ちいいんだろうな。」

「やっぱり……!!
あなたがお姉ちゃんをッ……!!
殺してやる……!!」

俺はズボンを下して
チ○コを取り出した。

「嘘……まさか……。
やめてっ!
おい! やめろっ!!」



「……んぎゅん……」

俺のチ○コが
彼女に突き刺さった。

「あ……あったかい！
久々のあったかおマ○コだ！
そうだった……
きみのお姉ちゃんも最初は
あったかかったんだよ！」

じゅ
ぽ
っ

「クソッ……
クソッ……!!
死ねっ……!!」

あまりに気持ちよくて
もはや出してしまいそうだ。

「だ……
出すよっ!!」

「だ……出す……!!?
やめッ……!!」





「きみたち姉妹には
ホントお世話になるなあ。
きみも俺を殺すつもりなんでしょ？
じゃあ逃がせないよね。
殺さないであげるから
これからもよろしくね。」

「うう……
お姉ちゃん……
おねえちゃん……」

彼女は脱力した様子で
何やらぼそぼそと言っていた。
もしかしたら
処女だったのかもしれない。

拘束されてから
一週間……



お姉ちゃんが
犯されている
今が一番
無防備……!!



私とお姉ちゃんを
交互に犯すのが
奴の日課だ



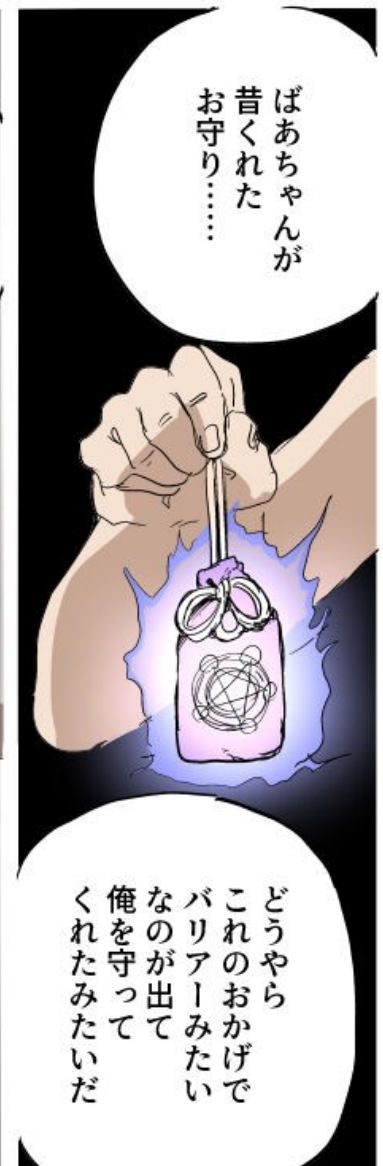
チャンスは
一度……!!

ボロ



ここで

決める…!!





「あ……
気持ちいい……!!
お姉ちゃんの時も
こうやって繋がりながら
首を切ったんだよね」

「もう一度
あの時の感覚が
味わえるだ
なんて……!!」

「アッ
アッ
アッ」

「アッ
アッ
アッ」

「アッ
アッ
アッ」

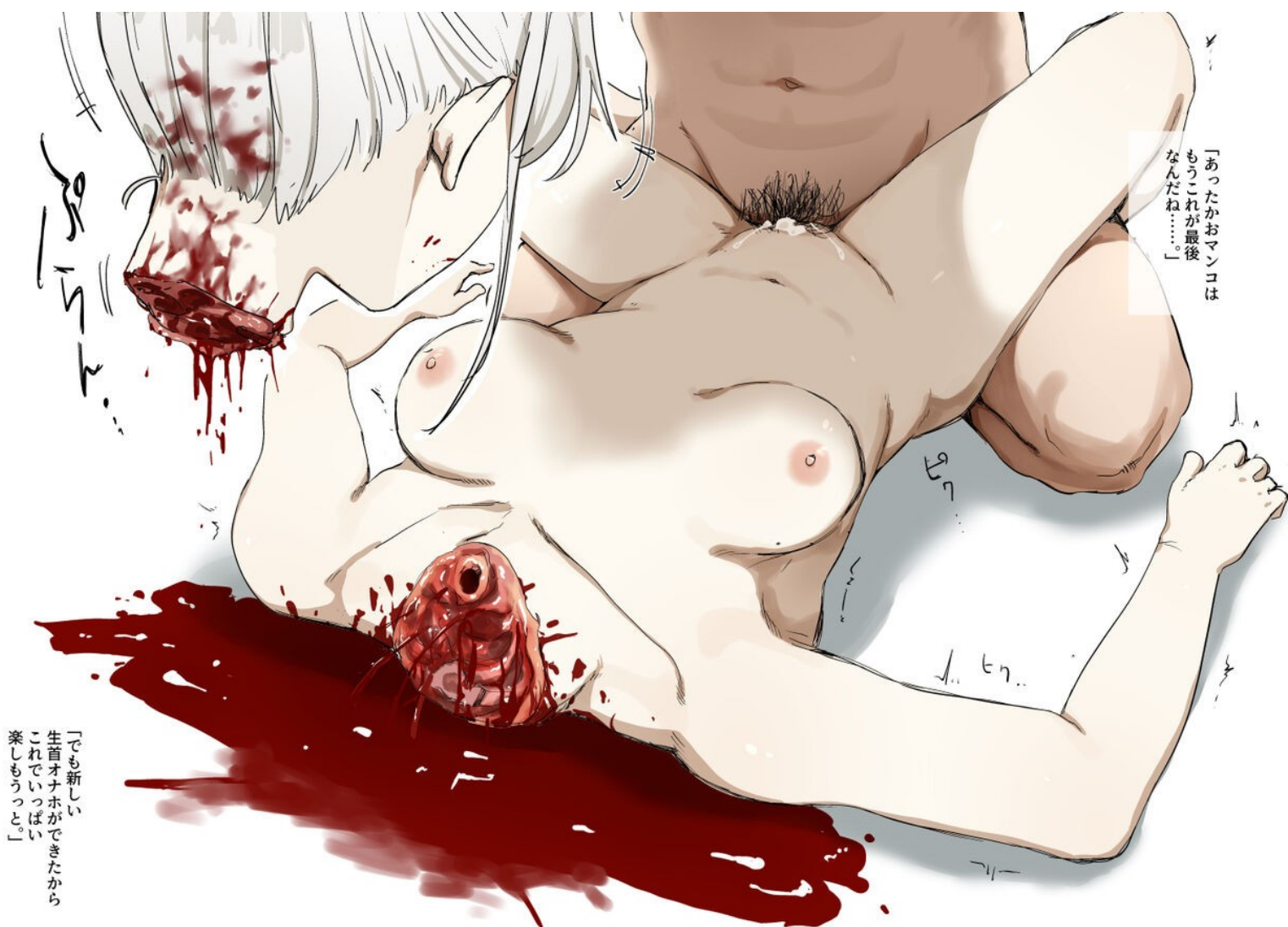


「い……
イクッ……！」

「あれ？
死んじゃった？
そっか……
僕ら一緒に
イけたんだね……。」

……

……



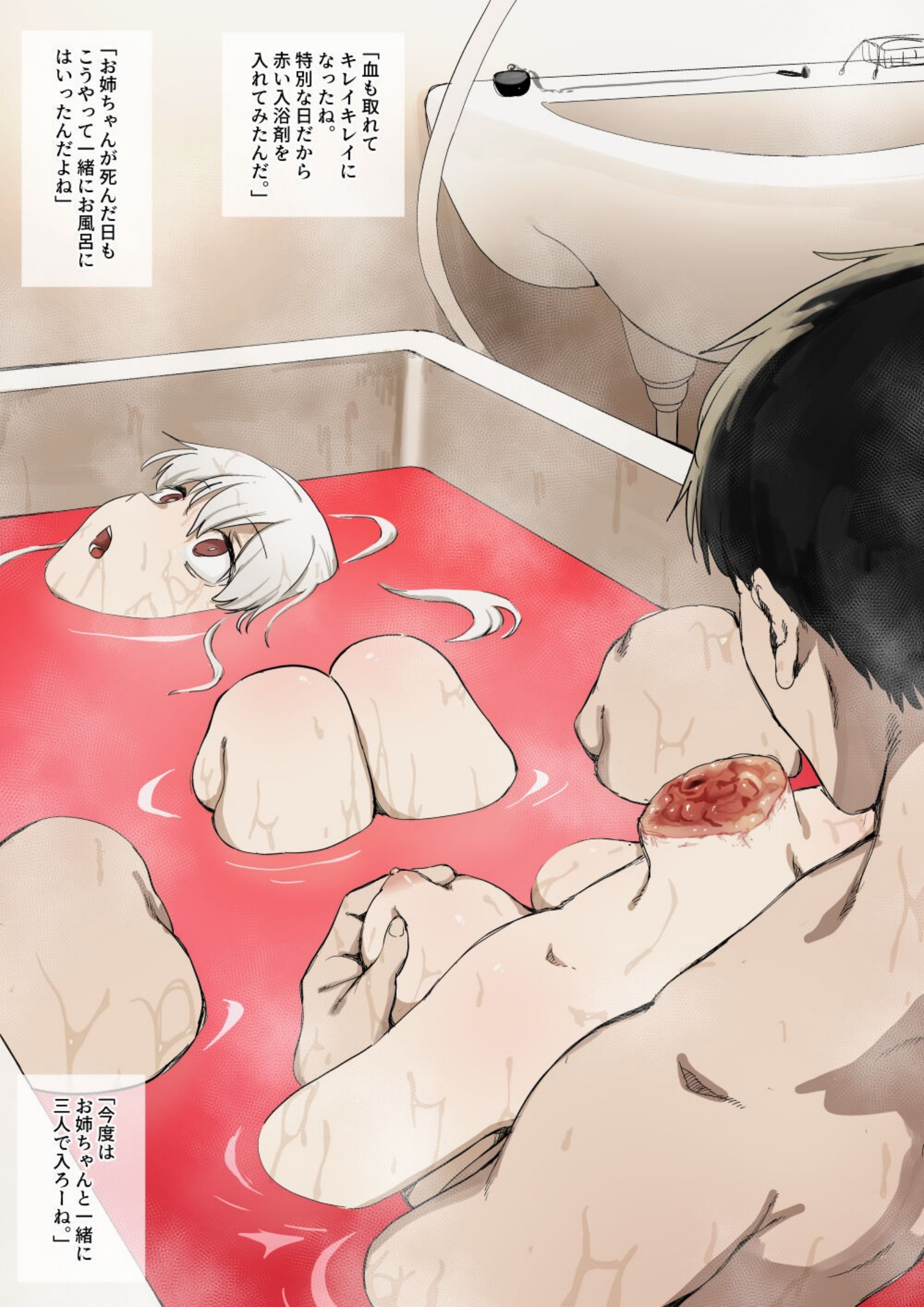
「あったかおマンコは
もうこれが最後
なんだね……」

「でも新しい
生首オナホができたから
これでいっばい
楽しもうっと。」

「血も取れて
キレイキレイに
なったね。
特別な日だから
赤い入浴剤を
入れてみたんだ。」

「お姉ちゃんが死んだ日も
こうやって一緒にお風呂に
はいったんだよね」

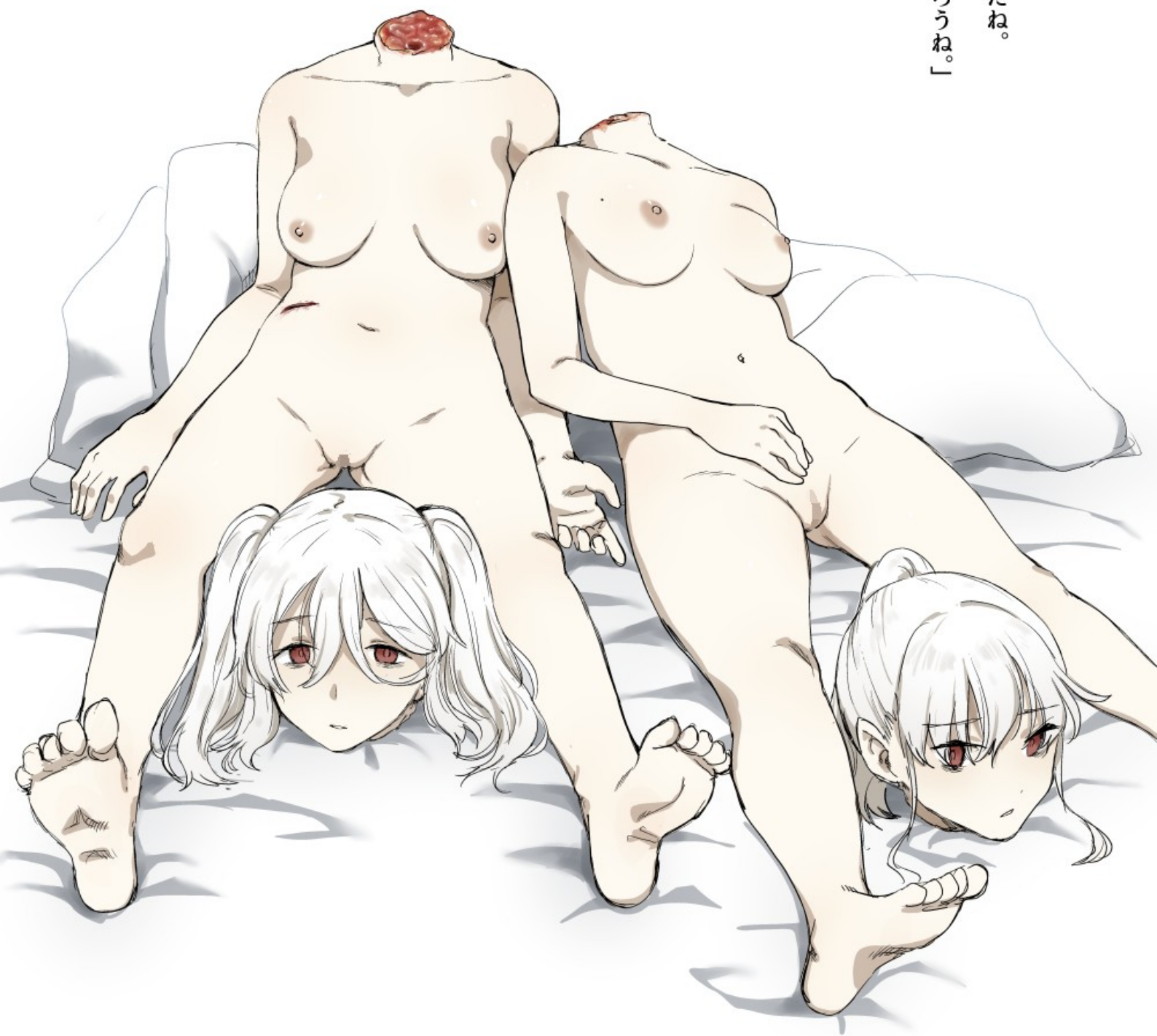
「今度は
お姉ちゃんと一緒に
三人で入ろうね。」







「ふう……。
今日も気持ちよかったね。
明日もその先も
一緒に気持ちよくなろうね。」



「これからも
三人でしあわせに
暮らそう！」

見分けポイント

